

**入場
無料**

ただし
資料代500円
定員200名

荒神谷遺跡から
弥生時代の銅剣が発見されて35年。
だれがなぜ埋めたのか、
その謎はまだ解明されていない。
大量銅剣埋納は何を語るのか、
最新の成果をもとに
研究者がその謎に迫ります。

銅剣 358本

謎の 土の 道

荒神谷遺跡青銅器発見 35周年記念
荒神谷青銅器フォーラム

2019 7.14 日

会場

開場:12:00~/開会:12:50/閉会予定:17:00
アクティーひかわ(多目的ホール)

オープニング

演目:「大地の鼓動」
出演:高須賀千江子(自然光ダンサー)

記念講演

演題:荒神谷遺跡銅剣発見35周年を振り返って
講師:藤岡大拙
(特定非営利活動法人出雲学研究所理事長)

報告(1)

テーマ:北部九州の青銅器と荒神谷青銅器群
-特別展を通して-
発表者:柏谷実加(荒神谷博物館学芸主任)

報告(2)

テーマ:国宝銅剣の調査研究で何がわかったか
発表者:増田浩太(島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員)

基調講演

演題:九州と韓国の青銅器埋納から
見た荒神谷遺跡
講師:武末純一(福岡大学人文学部教授)

パネル

パネリスト:武末純一・増田浩太・柏谷実加

ディスカッション (敬称略)

コーディネーター:松本岩雄
(島根県立八雲立つ風土記の丘所長)



出土した 358 本の銅剣

荒神谷博物館特別展『魏志倭人伝』シリーズ 外伝Ⅰ 「ムナカタ-海の民のクニ」

2019年7月13日(土)~8月26日(月)

開館時間:9:00~17:00

(最終入館16:30まで)

入館料:一般/520円(416円)

高大生/260円(208円)

小中生/130円(104円)

()内は、20名以上の団体

近年、弥生時代中期の墓域から北部九州屈指の武器形青銅器が発見された福岡県宗像市田熊石畑遺跡。その数の多さから『魏志倭人伝』にあるようなクニがあったのではないかと注目されています。そこからは荒神谷銅剣より古い形式の「中細形」銅剣が出土しました。現在の福岡県宗像市、福津市、古賀市の一部を含めた地域を「ムナカタ」と称して、多くの武器形青銅器が集まる地域の謎を探ります。

田熊石畑遺跡出土青銅器及び玉類。(宗像市教育委員会所蔵)



(文化庁蔵)
(写真提供:島根県立古代出雲歴史博物館)